

いのちの講話 ～大河内清輝君のお父さんの思い～

題 「見えない心の傷

ーいじめについて考えようー

12月8日(月)に「命の講話」を開催しました。弥富中学校では道德教育、平和教育の充実を図るべく「いのちを大切に」を指導のテーマに掲げ授業を行っています。その一環として毎年、講師を招いて講演会を開催しています。

平成6年11月に、西尾市の中学校2年生、大河内清輝君が13歳という若さでこの世を去ってしまう事件がありました。その原因は、数人の同級生グループによるいじめでした。日本中の人に衝撃が走りました。この事件がきっかけとなり、いじめの問題が日本中で急に騒がれるようになりました。あれから20年。今回は、父親の祥晴(よしはる)さんに「命の講話」をお願いしました。

お話の中で、今までに出会った子どもたちの声、手紙に書かれた叫びを紹介しながら、いじめの辛さ、苦しみ、心の傷に気づくことの難しさ。周りの生徒のいじめに対する感覚の無さ。相談ができない、打ち明けられない理由などについて話されました。

最後に、何でも相談できる友をもつこと、誰に対しても「ありがとう」が言える関係になることの大切さを話されました。そして、「ありがとう」は、自分自身と相手を大切にできる言葉だと思っています。と話されました。

生徒は、大河内さんの話から自己を振り返り、「いのち」、「いじめ」について深く考えるよき出会いをいただきました。この機会にご家庭でも「いのち」、「いじめ」について話題にしていだけるようお願いいたします。



防災講話

11月26日(水)に、防災講話が開催されました。講師に、弥富市防災安全課防災対策相談員の星屋政敏さんをお招きしました。

星屋さんは、陸上自衛隊を定年退職され市役所に勤務されています。自衛隊に在職中、阪神淡路大震災、東日本大震災などの災害派遣に参加されました。今回の講話では特に東日本大震災の被災地域の状況や、救援活動についてお話をお聞きしました。

この講演会を通して、生徒は、自分たちの町は自分たちが守るという、郷土愛の育成も含めた防災意識の高揚を図ることができたと思います。

赤い羽根募金

毎年恒例の生徒会による「赤い羽根募金」が、11月19日から21日まで行われました。募金額は20,868円でした。生徒の善意が、地域福祉活動を通して多くの人に役立つことと思えます。

